

オーストラリアの日本人

著者 長友 淳

2016年出版

160781096 内藤悠一郎

- 1.移民の時代
- a)グローバル化進展の現代
- ア)移民とは人間の移動と居住、永住及び長期滞在が概念
- イ)海外在留の日本人増加
 - →日本人海外永住者は約43万6500人(2015)
 - i)オーストラリアは約8万5000人もの日本人が居住
 - → アメリカ、中国の次
 - ii)国際結婚による増加が特徴
- 如何にして日本人コミュニティは広がったか？

- 2.オーストラリアへの日本人移住
- a)19世紀後半終盤移民が開始

- ア)当時の日本人移民を3つに大別
 - i)真珠貝ダイバー
 - ii)砂糖プランテーション労働
 - iii)からゆきさん(日本人娼婦)
- →クイーンズランド在住日本人116人の大半が娼婦(1887年)

- イ) 白豪主義の採用
- →非ヨーロッパ系住人に多大な影響
- i) 日本人を含むアジア系住民は激減
- ii) 移民排斥運動開始
- →1901年から1935年にかけて日本人数はほぼ半数に激減
- ウ) 太平洋戦争勃発(1941年)
- i) 在豪日本人のほとんどが強制収容所に収容
- ii) 非人道的な生活環境

- エ) 一方、政治的に日豪の歩み寄り
- →サンフランシスコ平和条約締結以降

- i) 実際問題人種差別は継続
- ii) 広島県在住のオーストラリア兵は
 - 日本人との交際禁止
 - →発覚した場合、本国へ配置転換

オ) オーストラリア兵と日本人女性の入籍

i) 日本人との入籍支援運動

ii) アーサー・コルウェル移民省大臣
及び政府が移民を容認

→1950年代には約600人の日本人花嫁が移住

- カ) 1960年以降、日豪の経済的関係深化
 - i) 駐在員も増加
 - ii) 1969年シドニーに初の日本人学校が設立
- サ) 1970年代の多文化主義の導入
 - 人種ではなく職業技術により
 - 移民を選択する経済的側面
 - →1990年代にはアジア系移民の急増

- シ) 1980年代の観光開発

- 積極的に外資を受諾

- →特に日本からの観光客の流入

- 結果:ワーキングホリデーや留学生の増加

- 2.在豪日本人永住者と多文化主義

- a)1950年代日本人コミュニティ組織の設立

- →日豪間の結びつき強化

- ア)オーストラリア各地に日本人会、同志会の設立

- →戦後の強制送還により実質的解体

- イ) 1980年以降の流入により日本クラブの設立
- → 日本人永住者主体のコミュニティ組織

- i) 1982年ヴィクトリア日本クラブ
- ii) 1983年シドニー日本クラブ
- iii) 1985年クイーンズランド日本クラブ
- ウ) 1991年4つのクラブ連合組織として全豪日本クラブ設立

- b)ハイブリッド性の教育
- ア)コミュニティ言語とはオーストラリアにおける
- マジョリティ言語とは別様

- i)コミュニティ言語とは移民コミュニティ内部の言語
- ii)母国で習得した言語も同様
- →日本文化の内面化
- イ)日本文化のオーストラリア人生産
- →ハイブリッドな日系第2世代の出現
-

- 3.遠隔地多文化主義
- a) 日本社会逃亡
- ア) 日本を離脱の背景、理由
- → 日本社会における不満
- i) 男性中心の年功序列
- ii) ジェンダー差別
- iii) 同質化の圧力
- イ) 日本社会のあり方とは
- → 海外移住自体が日本社会では?

- 4.終わりに
- a)多文化主義を越えた繋がり

- ア)オーストラリア永住者二世以降の研究が必要
 - →生の営み、アイデンティティー
- イ)オーストラリア社会に根付く人々の日本社会との繋がり
 - →アジア系オーストラリア人の自覚の有無
- 多文化社会永住者にとっての日本社会の多文化状況
-

目的：日系移民についての新たな理解

結論：日経オーーストラリア人は新たな日本人文化